瑞二だより



教育目標　**自立・貢献・生き抜く力**

発行者　江戸川区立瑞江第二中学校
校長　横枕　耕史
発行所　東京都江戸川区瑞江４－54－１
発行日　令和８年（2026 年）11 月２日
第５６４号

開校 60 周年を迎えて（校長式辞より）　第 14 代校長　横枕　耕史

（前略）昭和四十一年四月、高度経済成長期の日本とともに発展するこの瑞江地区の大きな期待を受け、本校は瑞江中学校を母体として産声を上げました。六十年という節目の年は、人でいえば「**還暦**」にあたります。開校以来、本校はこれまで 11,085 人もの卒業生を社会へと輩出してまいりました。このように長きにわたり教育活動を積み重ね、今日の日を迎えることができましたのは、ひとえに地域の皆様の温かいお支えと、歴代教職員の熱意、そして本校に関わるすべての方々のご尽力の賜物であります。

本校初代校長・井上国秋先生は教育目標として、**「よく学び、よく考える人になろう（真理）」「責任を重んじ、よく働く人になろう（勤労）」「規律を守り、よく協力する人になろう（協和）」「よく工夫し実行力に富む人になろう(創造)」**を掲げられました。この教育理念は開校以来六十年、本校の変わることのない精神として脈々と受け継がれてきました。しかし一方で、昭和から平成、令和へと、社会は大きく変化しています。少子高齢化、グローバル化、デジタル技術やＡＩの急速な進展など、私たちを取り巻く環境はこれまでになく速いスピードで変わり続けています。

本校では、これまでの伝統を土台としながら、第 13 代校長 滝澤清豪先生が掲げられた**「自立・貢献・生き抜く力」**を教育目標として、自ら考え、主体的に行動する力。人や社会のために役立とうとする心。そして、変化の激しい時代の中でも、たくましく未来を切り拓く力。生徒一人一人にこうした力を身に付けてほしいと願っています。

その実現に向け、本校では**「プレゼンテーションを通じた表現力の育成」**を研究主題として教育活動を進めています。プレゼンテーションを通して本校が育てたいのは、単なる発表の上手さではありません。自分で考える力。考えを整理する力。自分の言葉で分かりやすく伝える力。そして、相手の話に真剣に耳を傾け、対話を通してよりよい答えを見つけていく力です。これからの社会では、正解が一つとは限らない課題に向き合う場面が数多くあります。そのとき必要となるのは、知識だけではなく「私はこう考える」と自分の意見を伝える力と、「あなたはどう考えるのですか」と相手の考えを受け止める力です。その両方があって初めて、人と協力しながら社会をよりよくしていくことができます。

生徒の皆さんがこれから生きる未来は、これまで以上に変化の大きな時代になります。だからこそ、三つのことを大切にしてほしいと思います。

一つ目は、**「自分の考えを伝えること」**です。間違うことを恐れないで、上手に話せるかどうかを気にし過ぎないでください。大切なのは、自分で考え、自分の言葉で伝えようとすることです。プレゼンテーションが苦手なら、まずは半径ニメートルの身近な人に自分の思いを伝えることから始めればよいのです。自分の人生の舵を取るのは自分自身です。自分の言葉で未来を切り拓く人になってほしいと思います。

二つ目は、**「人のために行動すること」**です。

生徒会活動や地域ボランティアを通して、多くの人とのつながりを育んでいます。「みずにー・とぴろん」が描かれたボランティアＴシャツを着て地域で活動する皆さんの姿を誇りに思っています。あいさつをしたり、困っている人に声をかけたり、仲間を支えたりすること。その小さな行動の積み重ねが、人を幸せにし、地域を支え、社会をよりよいものにしていきます。

三つ目は、**「挑戦すること」**です。これからの時代に必要なのは、失敗しない人ではありません。失敗を恐れず、一歩を踏み出せる人です。挑戦には勇気が必要です。思うようにいかないこともあるでしょう。しかし、挑戦した経験は決して皆さんを裏切りません。挑戦した人だけが学び、成長し、次の景色を見ることができるのです。どうか、自分の**「好き」**を大切にしてください。そして、自分の**「得意」**を伸ばしてください。皆さん一人一人には、まだ**自分でも気付いていない大きな可能性**があります。

私は、その可能性を心から信じています。

（後略）